

小学生の部 『やまなし』② 宮沢賢治

ナレ③ ……十二月

蟹の子供らは、もうおぼろ大きくなり、底の景色も夏から秋の間にすっから変りまじだ。

白い柔かな田石もじりじり来て、小さな錐の形の水晶の粒や、金霊母のかけらもながれて来てしまじだ。

そのしめたい水の底まで、ラムネの瓶の月光がうっほら透りおろ天井では波が青い火を、燃したら消したらうんやんや、あたしはしんとして、ただうかとも遠くからうんやんや、その波の音がびびりて来るだけです。

蟹の子供らは、あんまり目が明ゆる水がきれいなので睡りながら外に出て、しばらくはうだまじりて泡をはじりて天上の方を見まじだ。

カニ兄 ……『やっぱり僕の泡は大きいな。』

カニ弟 ……『兄さん、わんやん大きく吐いてるんだら。僕だしてわんやんまじりて大きく吐けるよ。』

カニ兄 ……『吐いていらん。おや、たったそれだらうん。うんから、兄さんが吐くか見えておじで。それ、ね、大きいだらうん。』

カニ弟 ……『大きかないや、おんなじだい。』

カニ兄 ……『近くだから自分のが大きく見えるんだよ。それなら一緒に吐いて

みよう。いいかい、それ。』





小学生の部 課題 『やまなし』 宮沢賢治 / 青空文庫データを元に脚色し、脚本化しています。

配役

ナレーション③

・  
・  
・  
E

ナレーション④

・  
・  
・  
F

カニ兄②

・  
・  
・  
G

カニ弟②

・  
・  
・  
H

※選考の結果、配役を決定します。

カニ父

・  
・  
・  
渡部陽一